

九州山脈の南部に水源をなす清流万江川。この川付近に多くのゲンジボタルが生息する。見ごろは五月初旬から。『くまもとホタルの里100選』にも、この山江村を流れる万江川沿いから三方所が選ばれている。



今年が一番ホタルが確認されたのは、四月四日夜のこと。水上中学校二年生の尾方君が、村内の道端で二頭のゲンジボタルを確認した。

期待と興味が半分ずつ、そんな思いでこの地を訪れ、山江村の万江川まで足を延ばしてみた。

それは、まさしく幻想の世界への誘い。誰がタクトを振ったのか、一斉に点滅し始めた。ゲンジボタルの乱舞に遭遇してきたのだ。ホタルの乱舞する様は簡単に言葉で表すことはできない。

「水ぬるむころ、私たちは、もう一つの感動に出会います。幼虫の『上陸』と言ってですね、いっせいに水中から陸に上がり始める。これがまた、いっせ

いに光りを放ち出すんですよ」

と、『県ホタルを育てる会』副会長の山田氏は語る。

「あえて言うなら、空にひっそりと輝く星を集め、それを一面にちりばめたようです。色で例えるなら、奥深く、ほの明るい。まるで、エメラルドのよう……」

三月中旬の湿気を帯びた夜、もう一つの感動が繰り広げられる。小学一年生になる山田氏のお孫さんも、その一部始終を見ていた一人だ。拳を握り締め、言葉もなく、ただ震えていたという。

私たちの生活圏の中には、自然の営みもたらす『生の感動』が数多く残っている。まだまだ、今の世の中、捨てたもんじゃないらしい……。

ホタルと水。水は旨に限る。ほどよい冷たさ、透明感のある味わい、そして、ほんのりと甘い方がいい。

ほどよい生活臭がする川にはカワナ（ホタルのえき）が育ち、そしてカワナナの育つところに『人里の虫』ホタルは棲む。あっちの水は苦いぞ、こっちの水は甘いぞ、ホーホー、ホタルこい。歌にもあるように、ホタルも旨い水が好きらしい。

## 桃源郷に舞う宝石たち

エメラルド

撮影／大石肇志郎